

# ホリスティック企業レポート

## メディア工房

### 3815 東証マザーズ

アップデート・レポート  
2015年5月29日 発行

一般社団法人 証券リサーチセンター



証券リサーチセンター  
審査委員会審査済 20150526

# メディア工房 (3815 東証マザーズ)

発行日:2015/5/29

総合デジタルコンテンツ企業への変貌を目指している  
ゲーム事業への参入含め費用先行から、15年8月期は大幅営業減益を予想

## > 要旨

### ◆ 主力事業は古いコンテンツの制作及び配信

- ・メディア工房(以下、同社)の主力事業は、古いなどの情報コンテンツを制作し、携帯電話及びPC向けに配信するコンテンツ事業である。
- ・新規事業を営む子会社、ギフトカムジャパン、ブルークエスト、MKB コリア、ギフトカムの4社を新たに連結対象とし、機動力を高めることで総合デジタルコンテンツ会社を目指している。

### ◆ 15年8月期上期決算は減収大幅営業減益

- ・15/8期第2四半期累計(以下、上期)決算は、前年同期比2.9%減収、35.8%営業減益であった。
- ・古いコンテンツ等が減収となったこと、新たに連結対象となった子会社や関連会社による新規事業への先行投資による開発費負担等が高んだために、大幅な営業減益となった。

### ◆ メディア工房は15年8月期業績予想を開示せず

- ・同社は新規事業に不確定要素が多数内在しているとして、15/8期業績予想を公表していない。
- ・証券リサーチセンターは、15/8期上期実績を踏まえ、15/8期業績予想について、売上高を前回予想の2,800百万円から2,480百万円(前期比0.1%減)に、営業利益を同順で710百万円から450百万円(同30.2%減)へと修正した。

### ◆ 投資に際しての留意点

- ・同社の株価は、15年1月27日にゲーム事業への参入を表明した後、27日終値1,042円(株式分割修正後521円)から2月10日には高値3,550円(同1,775円)まで急騰した。投資に際しては、短期間に株価が大きく変動する可能性があることに留意すべきだろう。

アナリスト:松尾 十作  
+81(0)3-6858-3216  
レポートについてのお問い合わせはこちら  
info@stock-r.org

### 【主要指標】

|           | 2015/5/22  |
|-----------|------------|
| 株価(円)     | 1,102      |
| 発行済株式数(株) | 11,300,000 |
| 時価総額(百万円) | 12,453     |

|          | 前期実績 | 今期予想 | 来期予想 |
|----------|------|------|------|
| PER(倍)   | 35.4 | 54.8 | 48.8 |
| PBR(倍)   | 5.7  | 5.3  | 5.1  |
| 配当利回り(%) | 1.1  | 1.1  | 1.1  |

### 【株価パフォーマンス】

|           | 1カ月   | 3カ月   | 12カ月  |
|-----------|-------|-------|-------|
| リターン(%)   | -16.4 | -25.1 | -47.5 |
| 対TOPIX(%) | -16.9 | -27.6 | -53.0 |

### 【株価チャート】



### 【3815 メディア工房 業種:情報・通信業】

| 決算期       | 売上高   | 前期比  | 営業利益  | 前期比   | 経常利益  | 前期比   | 純利益   | 前期比   | EPS  | BPS   | 配当金   |
|-----------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|
|           | (百万円) | (%)  | (百万円) | (%)   | (百万円) | (%)   | (百万円) | (%)   | (円)  | (円)   | (円)   |
| 2012/8    | 2,640 | 7.0  | 635   | 2.2   | 635   | 3.7   | 346   | -2.8  | 34.2 | 148.6 | 11.25 |
| 2013/8    | 2,445 | -7.4 | 689   | 8.5   | 689   | 8.4   | 398   | 14.9  | 39.1 | 176.1 | 12.25 |
| 2014/8    | 2,482 | 1.5  | 645   | -6.3  | 633   | -8.2  | 327   | -17.8 | 31.1 | 193.3 | 12.25 |
| 2015/8 CE | —     | —    | —     | —     | —     | —     | —     | —     | —    | —     | —     |
| 2015/8 E  | 2,480 | -0.1 | 450   | -30.2 | 400   | -36.8 | 208   | 23.5  | 20.1 | 206.1 | 12.25 |
| 2016/8 E  | 2,630 | 6.0  | 500   | 11.1  | 450   | 12.5  | 233   | 12.0  | 22.6 | 215.3 | 12.25 |
| 2017/8 E  | 2,740 | 4.2  | 535   | 7.0   | 485   | 7.8   | 251   | 7.7   | 24.3 | 226.2 | 12.25 |

(注)CE:会社予想、E:証券リサーチセンター予想、新規事業次第で経営成績が上下する可能性の高いことから、15/8期業績の会社予想の開示なし  
14年4月1日付で株式分割(1:100)、及び15年4月1日付で株式分割(1:2)を実施。EPS、BPS、配当金は分割調整後

### アップデート・レポート

2/7

本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。一般社団法人 証券リサーチセンターは、本レポートの配信に関して閲覧し投資家が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。最終投資判断は投資家個人においてなされなければならず、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家にあります。また、本件に関する知的所有権は一般社団法人 証券リサーチセンターに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

## > 事業内容

### ◆ 主力事業は占いコンテンツの制作及び配信

メディア工房（以下、同社）の主力事業はデジタルコンテンツの制作及び配信事業で、占いなどの情報コンテンツを制作し、携帯電話及びPC向けに配信している。同社グループは、同社と連結子会社2社（ギフトカムジャパン、ブルークエスト）及び持分法適用会社2社（MKB コリア、ギフトカム）で構成されている。14/8期までの事業区分であるコンテンツ事業、ブランド事業、その他の区分を改め、15/8期よりコンテンツ事業、O2O事業、その他の事業区分に変更した。

コンテンツ事業は、主に同社が企画及び制作、運営している占いコンテンツ等を、携帯電話向け及びPC向けに配信するものであったが、15/8期第2四半期累計（以下、上期）よりゲーム事業に本格参入した。なお、韓国にて占いコンテンツを配信している MKB コリアが 15/8期第1四半期より連結対象となった。

ゲーム事業はコンテンツ事業において、占い事業に次ぐ第二の柱とするべく注力している。国内で開発し世界に配信するゲームのブランドである「OBOKAID'EM（オボカイドイーエム）」を15年1月に立ち上げ、4月に第1弾ゲームとして「BOOST BEAST（ブーストビースト）」の配信を約140カ国で開始した。同タイトルは、国内はもとより海外でもGooglePlay、AppStoreにおいておすすめゲームとして取り上げられた。他方、海外のゲームを国内に配信する業務は14年10月に子会社化、15年8月期第2四半期より連結対象となったブルークエストが担い、15年4月に「怪人ランブルZ」の配信を開始した。

O2O事業については、従来「ブランド事業」としてアパレル商品の企画及び実店舗、ECサイトでの販売と15/8期第1四半期より連結子会社となったギフトカムジャパンが営んでいる広告ビジネスを統合したものである。

その他の事業は電話占いが主力事業である。

## > 強み・弱みの分析

### ◆ デバイスの変化に対応したコンテンツ配信

同社の強みは、デバイスに左右されない、新しい占いコンテンツを毎月制作する開発力である。従って、フィーチャーフォン向けコンテンツをスマートフォン向けコンテンツへ速やかに対応できたため、デバイスの変化に対応した経営で占いコンテンツを主力とする同業他社のような業績低迷を免れた。

他方、占いコンテンツが経営の屋台骨であり、次の収益の柱が不透明なことが弱みである。売上高は12/8期の2,640百万円がピークとなっている。

【 図表 1 】 SWOT 分析

|                     |   |
|---------------------|---|
| 強み<br>(Strength)    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・デバイスに左右されないコンテンツ制作能力。</li> <li>・自社の技術者によってコンテンツを作り込む力、またコンテンツ配信などによって得られた顧客データと解析情報を活用したマーケティング力に優れている。</li> <li>・古いコンテンツのロジック作りは精巧であり、専門的能力の高い占い師を囲い込む力を持つ。</li> </ul> |
| 弱み<br>(Weakness)    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営陣が 06 年の上場以来、短期間で入れ替わっており、組織力に弱みがあると思われる。</li> <li>・古いコンテンツの売上高構成比が高いこと。</li> </ul>   |
| 機会<br>(Opportunity) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・LINE からグノシーへ、新たなプラットフォームへ迅速に対応してきたことでの顧客層の拡大。</li> <li>・古いコンテンツで築いてきた顧客基盤に対して、ゲーム事業への勧誘によるビジネスチャンスの創造。</li> </ul>   |
| 脅威<br>(Threat)      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市場参入障壁は低く、占いを手掛けている企業、団体、個人は数え切れない。</li> <li>・業界内競争は厳しいことから、顧客喪失リスクは少なくない。</li> </ul>   |

(出所) 証券リサーチセンター

## > 決算概要

### ◆ 15 年 8 月期上期決算は営業大幅減益

15/8 期上期決算は、売上高 1,209 百万円（前年同期比 2.9%減）、営業利益 216 百万円（同 35.8%減）、経常利益 190 百万円（同 42.6%減）、純利益 89 百万円（同 49.6%減）であった。同社は業績予想を開示していないため、同社の計画に対する進捗は不明である。15/8 期上期より新規事業を手がけている 4 社が連結対象となり、先行投資が嵩んだこともあり利益面では大幅減益となった。

主力事業のコンテンツ事業は、売上高 1,186 百万円（前年同期比 3.9%減）、セグメント利益 449 百万円（同 19.8%減）であった。15/8 期上期から開示されたコンテンツ別では、古いコンテンツ等は売上高 1,155 百万円（同 3.6%減）、営業利益 460 百万円（同 14.3%減）、ゲームコンテンツは売上高 8 百万円（同 4.7 倍）、営業損失 22 百万円（前年同期は 3 百万円の損失）、ソリューションは売上高 22 百万円（同 34.8%減）、営業利益 10 百万円（同 58.1%減）であった。

古いコンテンツ等については、前年同期に大ヒットした占いコンテンツ「人気芸人の結婚的中 TV で話題！ 当たる占い師 琉球ユタ・はる」に相当するような大ヒットコンテンツが 15/8 期上期にはなかったため、減収及び採算低下を招いた。ゲームコンテンツについては、ゲーム市場に本格参入したものの費用先行で営業損失が拡大した。

注1) AR アプリ

スマートフォンにてアプリケーションを起動し、広告をカメラでかざすと、AR (拡張現実) が動き出す仕組み。AR とは、現実の風景に情報を重ね合わせる技術で、机の上に存在しないカップを表示する等がある。

注2) イベントアプリ

AR 画像マッチングアプリを指す。スタンプラリーの写真版のようなアプリケーションである。指定された場所の指定された画像を撮る等のミッションを遂行することでスポンサーからポイントを得られる仕組みである。

O2O 事業は、売上高 4 百万円 (前年同期比 34.9%減)、セグメント損失 58 百万円 (前年同期は 33 百万円の損失) であった。アパレル商品の実店舗及びECサイトでの販売低迷により大幅減収となったことに加え、AR アプリ<sup>注1</sup>やイベントアプリ<sup>注2</sup>が完成し、システム受託やイベントの開催も含めた事業の本格展開に向けての費用が先行しているギフトカムジャパンが第 1 四半期より結対象となったため、セグメント損失が拡大した。

その他の事業は、売上高 18 百万円 (前年同期比 4.5 倍)、セグメント損失 14 百万円 (前年同期は 32 百万円の損失) であった。「Lierre」を中心とした電話占いサイトの集客力を強化したこと、同社独自の電話占いシステムの受託販売先の増加により、増収及びセグメント損失の縮小となった。

➤ 業績見通し

◆ メディア工房の 15 年 8 月期施策

同社は新規事業に不確定要素が多数内在しており、業績予想が極めて困難であることを理由として、15/8 期の業績予想を開示していない。14/8 期と同様に、第 3 四半期公表前後に同社から 15/8 期業績予想が開示されるものと思われる。

コンテンツ事業においては、ア) 14/8 期末に LINE 専属の占い師による LINE 向け占いコンテンツを開始したこと、イ) 14 年 7 月のグノシーに続いて 15 年 1 月 19 日に世界最大手のニュースキュレーションアプリ「Flipboard (フリップボード)」の日本版において「あなたの今日の運勢」の配信を開始したこと、ウ) ブルークエストの連結子会社化も含めゲーム事業への本格参入が増収要因として挙げられる。ゲーム事業においては、「BOOST BEAST (ブーストビースト)」に続き「2016 WORLD CRISIS」を 15 年 8 月にリリース予定である。

◆ 証券リサーチセンターの 15 年 8 月期業績予想

15/8 期について当センターでは、前回レポート (14 年 11 月発行) の予想である売上高 2,800 百万円、営業利益 710 百万円、経常利益 710 百万円、当期純利益 404 百万円を、売上高 2,480 百万円 (同 0.1%減)、営業利益 450 百万円 (同 30.2%減)、経常利益 400 百万円 (同 36.8%減)、当期純利益 208 百万円 (同 23.5%減) に修正した。

主な修正点としては、売上面ではコンテンツ事業においてゲーム事業の本格参入と 15/8 期上期の占いコンテンツの減収等を鑑み、予想売上高を従来の 2,761 百万円から 2,430 百万円 (同 0.7%減) に減額したこと等である。利益面では、主にゲームコンテンツにおける費用先行

から 15/8 期上期の売上総利益率が前年同期比 3.7%ポイント低下の 63.9%であったことに鑑み、15/8 期の予想売上総利益率を 66.5%から 64.0%に引き下げた。また、販売費及び一般管理費については、ギフトカムジャパン等想定していなかった新たな連結対象会社により予想額を修正した。これらの結果、営業利益を増益予想から大幅減益予想に変更した。

> 中期予想

◆ 中期経営計画は未公表

同社は、具体的な中期経営計画は開示していない。但し達成時期を示していないが、目標とする経営指標として、売上高経常利益率 30% (14/8 期実績 25.5%)、ROE25.0% (同 17.0%)、配当性向 25%~35% (同 39.8%) を掲げている。

◆ 証券リサーチセンターの中期予想

当センターは、中期業績予想も見直した。なお、新しく区分された事業別に売上高を予想した。前回予想との主な相違点は 15/8 期のコンテンツ事業の予想売上高を減額修正したため、16/8 期以降の売上高を見直したこと、連結対象会社数の増加により販売費及び一般管理費の予想額を修正したこと等である。

【 図表 2 】 証券リサーチセンターの中期業績予想

(単位：百万円)

|            | 14/8期 | 旧15/8期E | 15/8期E | 旧16/8期E | 16/8期E | 旧17/8期E | 17/8期E |
|------------|-------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|
| 売上高        | 2,482 | 2,800   | 2,480  | 3,000   | 2,630  | 3,180   | 2,740  |
| コンテンツ事業    | 2,447 | 2,761   | 2,430  | 2,960   | 2,560  | 3,139   | 2,660  |
| O2O事業      | —     | —       | 10     | —       | 20     | —       | 20     |
| その他の事業     | —     | —       | 40     | —       | 50     | —       | 60     |
| 売上総利益      | 1,644 | 1,862   | 1,587  | 1,995   | 1,710  | 2,115   | 1,810  |
| (対売上高比)    | 66.2% | 66.5%   | 64.0%  | 66.5%   | 65.0%  | 66.5%   | 66.1%  |
| 販売費及び一般管理費 | 999   | 1,152   | 1,137  | 1,220   | 1,210  | 1,285   | 1,275  |
| (対売上高比)    | 40.2% | 41.1%   | 45.8%  | 40.7%   | 46.0%  | 40.4%   | 46.5%  |
| 営業利益       | 645   | 710     | 450    | 775     | 500    | 830     | 535    |
| (対売上高比)    | 26.0% | 25.4%   | 18.1%  | 25.8%   | 19.0%  | 26.1%   | 19.5%  |
| 経常利益       | 633   | 710     | 400    | 775     | 450    | 830     | 485    |
| (対売上高比)    | 25.5% | 25.4%   | 16.1%  | 25.8%   | 17.1%  | 26.1%   | 17.7%  |
| 当期純利益      | 327   | 404     | 208    | 441     | 233    | 473     | 251    |
| (対売上高比)    | 13.2% | 14.4%   | 8.4%   | 14.7%   | 8.9%   | 14.9%   | 9.2%   |

(注) 事業区分が 15/8 期より変更となったため、14/8 期の O2O 事業及びその他の事業の売上高は公表されていない。また、これらの事業区分についての前回レポート予想もない

(出所) 証券リサーチセンター

コンテンツ事業の予想売上高は、16/8 期 2,560 百万円 (前期比 5.3%増)、17/8 期 2,660 百万円 (同 3.9%増) と想定した。占いコンテンツ等においては、スマートフォン向けの増収がフィーチャーフォン向けの減収を上回る傾向が続き、ゲームコンテンツにおいては穏やかな成長が続くと想定した。

O2O 事業の予想売上高は受託販売が増加する見込みから 16/8 期 20 百万円 (前期比 100.0%増)、17/8 期 20 百万円 (同横ばい)、何れの期も営業損益均衡と想定した。新たな展開として、ア) 新たな自社集客メディア、イ) C2C 事業への参入を掲げている。新たな自社集客メディアは 20 代~30 代を顧客層としたオリジナルコンテンツを提供する見込みで 15 年夏までに公表予定である。C2C 事業への参入については、15 年秋には新サービスの内容をリリースする予定である。当センターの業績予想ではこれらの新たな展開は含めていない。

その他の事業の予想売上高は、足元において電話占いサイトの集客力が増していることを鑑み、16/8 期 50 百万円 (前期比 25.0%増)、17/8 期 60 百万円 (同 20.0%増) と予想する。競争激化から広告宣伝費の増大を見込み、何れの期も営業損益均衡と想定した。

## > 投資に際しての留意点

### ◆ 安定配当が続こう

同社は目標とする配当性向を 25%~35%として、内部留保の充実及び事業投資並びに各期の経営成績を総合的に勘案して安定配当を実施する方針を掲げている。

14/8 期は当期純利益が前期比 17.8%減益であったが、配当金については安定配当方針を重視し、13/8 期と同じく 1 株当たり年 24.5 円 (配当性向 39.8%、15 年 4 月に実施した 1:2 の株式分割を考慮すると 12.25 円) とした。

当センター予想の 15/8 期の 1 株当たり年 12.25 円で配当性向は 60.8%の見通しとなるが、14/8 期並みの 1 株当たり年配当額が続くものと予想する。

### ◆ 株価は振れ幅が大きい

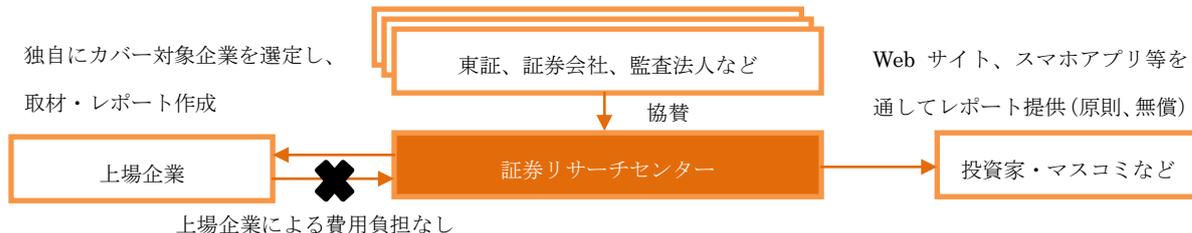
同社の株価は、15 年 1 月 27 日のゲーム事業への参入表明により、27 日終値 1,042 円 (株式分割修正後 521 円) から翌 28 日より出来高を伴い上昇し、2 月 10 日の高値 3,550 円 (同 1,775 円) まで急騰した。その後は調整局面が続いているが、今後もゲーム事業の成否を窺わせるニュースリリース等により、短期間に株価が大きく変動する可能性があることに留意しておきたい。また、毎月 20 日前後に同社から月次売上高が公表されることにも注意を払いたい。

証券リサーチセンターでは、同社を対象とするレポート発信を 12 年 2 月 28 日より開始いたしました。

初回レポートの発行から 3 年以上経過したことや、新興市場に新規上場した企業を中心に紹介してゆくという当センターの設立趣旨に則り、同社についてのレポート発信は、今回を以て終了とさせていただきます。

証券リサーチセンターについて

証券リサーチセンターは、株式市場の活性化に向けて、中立的な立場から、アナリスト・カバーが不十分な企業を中心にアナリスト・レポートを作成し、広く一般にレポートを公開する活動を展開しております。



■ 協賛会員

(協賛)

|           |               |                 |             |
|-----------|---------------|-----------------|-------------|
| 東京証券取引所   | SMBC 日興証券株式会社 | 大和証券株式会社        | 野村證券株式会社    |
| みずほ証券株式会社 | 有限責任あずさ監査法人   | 有限責任監査法人トーマツ    | 新日本有限責任監査法人 |
| 優成監査法人    | 株式会社 ICMG     |                 |             |
| (準協賛)     |               |                 |             |
| 三優監査法人    | 太陽有限責任監査法人    | 株式会社 SBI 証券     |             |
| (賛助)      |               |                 |             |
| 日本証券業協会   | 日本証券アナリスト協会   | 監査法人 A&A パートナーズ | いちよし証券株式会社  |

本レポートの特徴

「ホリスティック企業レポートとは」

ホリスティック企業レポートとは、証券リサーチセンターが発行する企業調査レポートのことを指します。ホリスティック企業レポートは、企業側の開示資料及び企業への取材等を通じて収集した情報に基づき、企業価値創造活動の中長期の持続可能性及び株価評価などの統合的分析結果を提供するものです

■ 魅力ある上場企業を発掘

新興市場を中心に、アナリスト・カバーがなく、独自の製品・技術を保有している特徴的な企業を発掘します

■ 企業の隠れた強み・成長性を評価

本レポートは、財務分析に加え、知的資本の分析手法を用いて、企業の強みを評価し、企業の潜在的な成長性を伝えます。さらに、今後の成長を測る上で重要な KPI (業績指標) を掲載することで、広く投資判断の材料を提供します

■ 第三者が中立的・客観的に分析

中立的な立場にあるアナリストが、企業調査及びレポートの作成を行い、質の高い客観的な企業情報を提供します

本レポートは、企業価値を「財務資本」と「非財務資本」の両側面から包括的に分析・評価しております

本レポートの構成

企業の価値は、「財務資本」と「非財務資本」から成ります。

「財務資本」とは、これまでに企業活動を通じて生み出したパフォーマンス、つまり財務諸表で表される過去の財務成果であり、目に見える企業の価値を指します。

それに対して、「非財務資本」とは、企業活動の幹となる「経営戦略/ビジネスモデル」、経営基盤や IT システムなどの業務プロセスや知的財産を含む「組織資本」、組織の文化や意欲ある人材や経営陣などの「人的資本」、顧客との関係性やブランドなどの「関係資本」、社会との共生としての環境対応や社会的責任などの「ESG 活動」を指し、いわば目に見えない企業の価値のことを言います。

本レポートは、目に見える価値である「財務資本」と目に見えない価値である「非財務資本」の両面に着目し、企業の真の成長性を包括的に分析・評価したものです。



## 指標・分析用語の説明

### ■ PER (Price Earnings Ratio)

株価を1株当たり当期純利益で除したもので、株価が1株当たり当期純利益の何倍まで買われているのかを示すものです

### ■ PBR (Price Book Value Ratio)

株価を1株当たり純資産で除したもので、株価が1株当たり純資産の何倍まで買われているのかを示すものです

### ■ 配当利回り

1株当たりの年間配当金を、株価で除したもので、投資金額に対して、どれだけ配当を受け取ることができるかを示すものです

### ■ ESG

Environment : 環境、Society : 社会、Governance : 企業統治、に関する情報を指します。近年、環境問題への関心や企業の社会的責任の重要性の高まりを受けて、海外の年金基金を中心に、企業への投資判断材料として使われています

### ■ SWOT 分析

企業の強み (Strength)、弱み (Weakness)、機会 (Opportunity)、脅威 (Threat) の全体的な評価を SWOT 分析と言います

### ■ KPI (Key Performance Indicator)

企業の戦略目標の達成度を計るための評価指標 (ものさし) のことです

### ■ 知的資本

顧客関係や業務の仕組みや人材力などの、財務諸表には表れないが、財務業績を生み出す源泉となる「隠れた経営資源」を指します

### ■ 関係資本

顧客や取引先との関係、ブランド力など外部との関係性を示します

### ■ 組織資本

組織に内在する知財やノウハウ、業務プロセス、組織・風土などを示します

### ■ 人的資本

経営陣と従業員の人材力を示します

## 免責事項

- ・本レポートは、一般社団法人 証券リサーチセンターに所属する証券アナリストが、広く投資家に株式投資の参考情報として閲覧されることを目的として作成したものであり、特定の証券又は金融商品の売買の推奨、勧誘を目的としたものではありません。
- ・本レポートの内容・記述は、一般に入手可能な公開情報に基づき、アナリストの取材により必要な補充を加えて作成されたものです。本レポートの作成者は、インサイダー情報の使用はもとより、当該情報を入手することも禁じられています。本レポートに含まれる情報は、正確かつ信頼できると考えられていますが、その正確性が客観的に検証されているものではありません。また、本レポートは投資家が必要とする全ての情報を含むことを意図したものではありません。
- ・本レポートに含まれる情報は、金融市場や経済環境の変化等のために、最新のものではなくなる可能性があります。本レポート内で直接又は間接的に取り上げられている株式は、株価の変動や発行体の経営・財務状況の変化、金利・為替の変動等の要因により、投資元本を割り込むリスクがあります。過去のパフォーマンスは将来のパフォーマンスを示唆し、または保証するものではありません。特に記載のないかぎり、将来のパフォーマンスの予想はアナリストが適切と判断した材料に基づくアナリストの予想であり、実際のパフォーマンスとは異なることがあります。したがって、将来のパフォーマンスについては明示又は黙示を問わずこれを保証するものではありません。
- ・本レポート内で示す見解は予告なしに変更されることがあり、一般社団法人 証券リサーチセンターは、本レポート内に含まれる情報及び見解を更新する義務を負うものではありません。
- ・一般社団法人 証券リサーチセンターは、投資家が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても一切責任を負いません。最終投資判断は投資家個人においてなされなければならない、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家にあります。
- ・本レポートの著作権は一般社団法人 証券リサーチセンターに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。